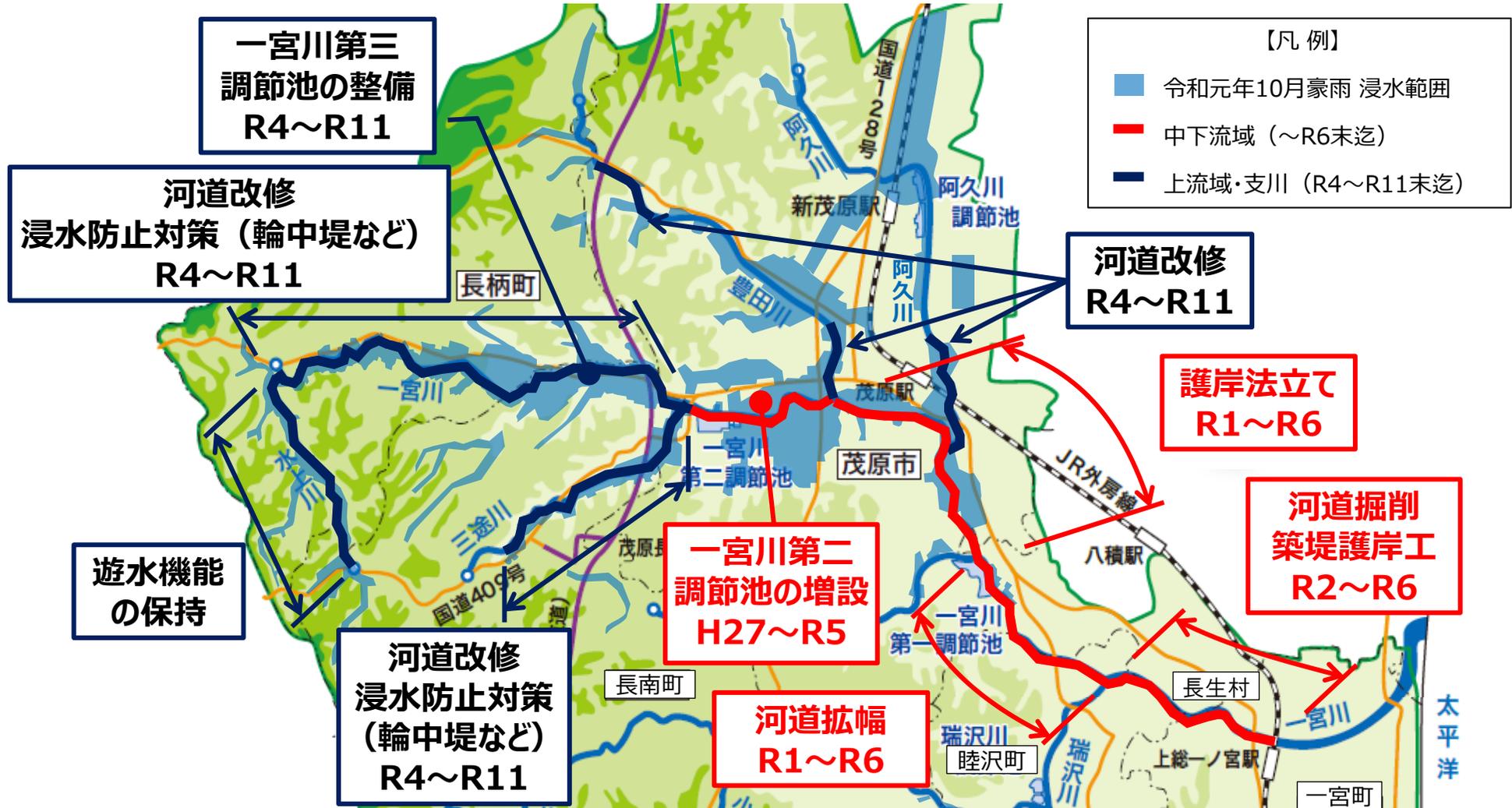


一宮川流域浸水対策特別緊急事業と効果推算 (令和11年度末までの整備)

R11年度までの一宮川の整備

■令和元年の大雨と同規模の降雨に対して、河川の上下流バランスに配慮しつつ、令和11年度迄に流域市町村と連携し、総合的な浸水対策を実施する。



上流域：一定規模の河川整備を行うとともに住宅は輪中堤などで守りつつ、遊水機能を保持、貯留施設を整備

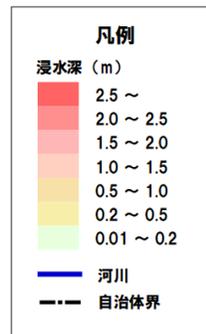
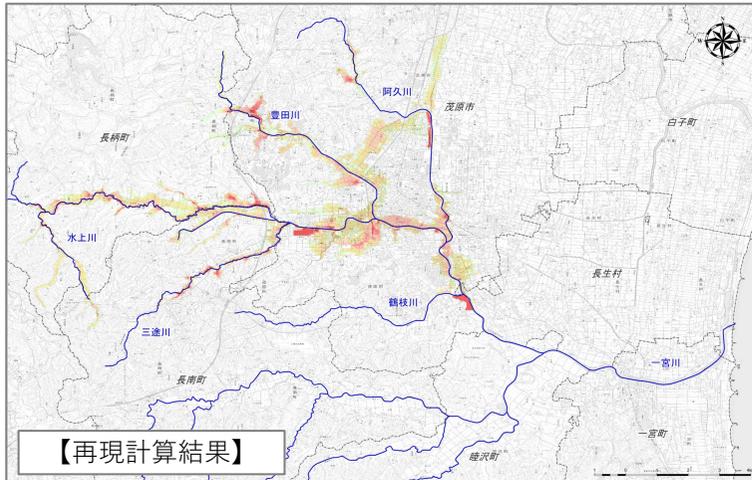
中下流：河川を広げるなど洪水を速やかに流下

R1.10洪水に対する効果

R11年度時点にR1.10洪水が発生した場合のシミュレーション

【R1.10洪水に対する効果】

・浸水が大幅に軽減される。豊田川下流部での越水はほぼ解消する。

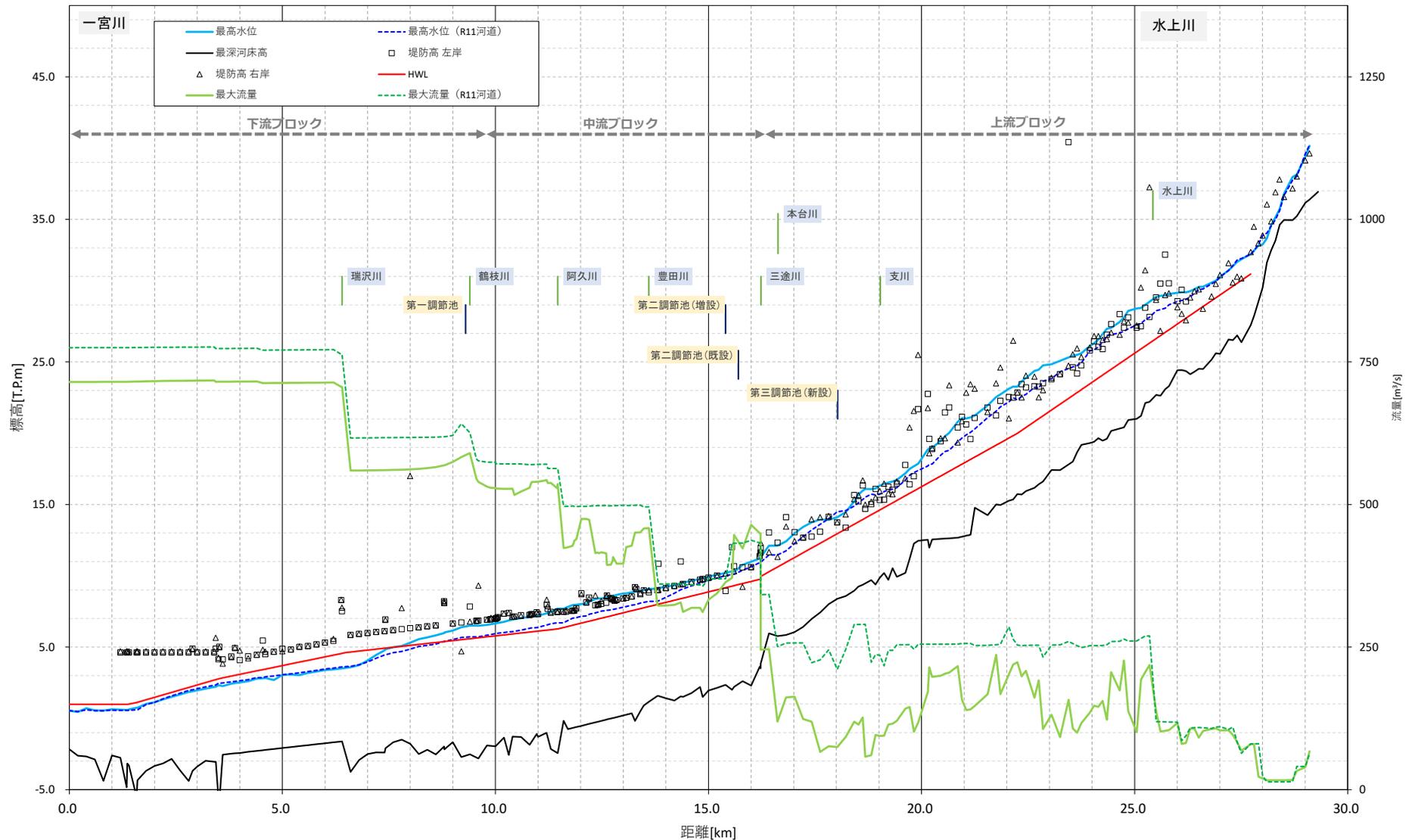


R1.10洪水に対する効果

R11年度時点にR1.10洪水が発生した場合のシミュレーション

【R1.10洪水に対する効果】

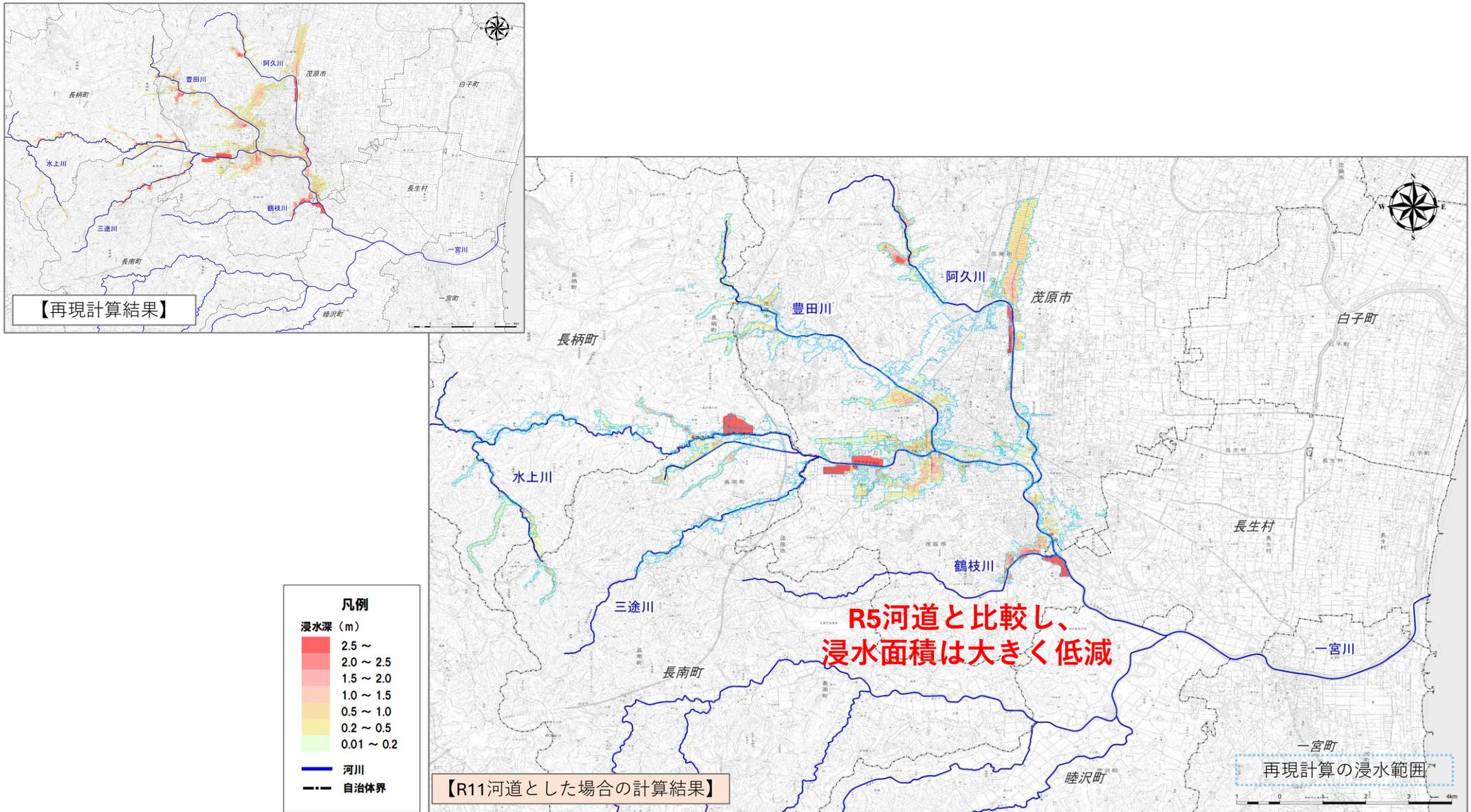
- ・ 浸水が大幅に軽減される。豊田川下流部での越水はほぼ解消する。



R11年度時点にR5.9洪水が発生した場合のシミュレーション

【R5.9洪水に対する効果】

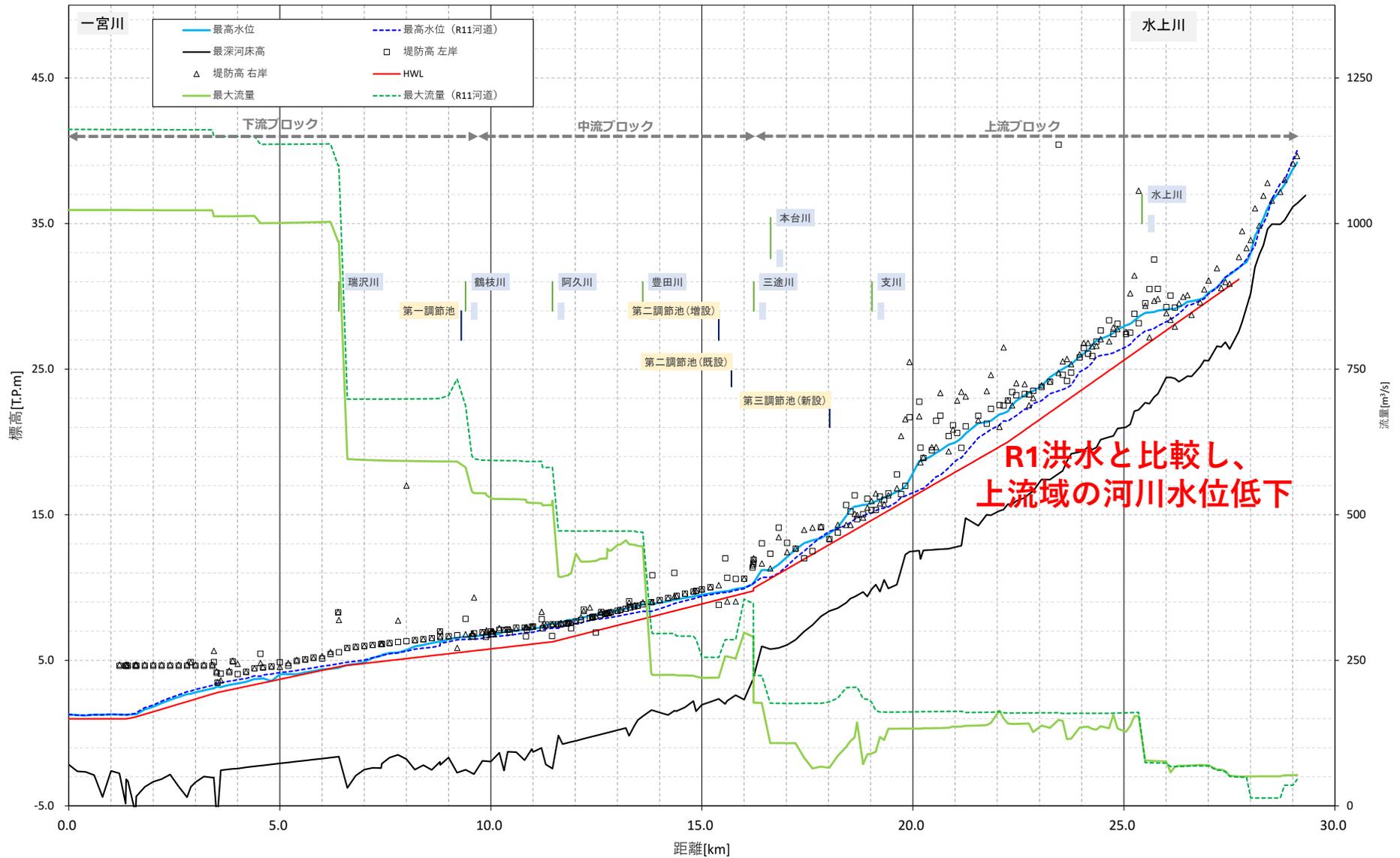
- ・浸水が大幅に軽減される。



R11年度時点にR5.9洪水が発生した場合のシミュレーション

【R5.9洪水に対する効果】

- ・ 浸水が大幅に軽減される。上流（長柄・長南）で溢れるが、中下流（茂原・一宮等）では越水しなくなる。



- 令和元年降雨、令和5年降雨に対して、**現在の河川整備**は、流域全体の浸水リスクを低減させる、上下流バランスのとれた計画となっており、**概ね妥当**。更なる大規模河川整備の追加よりも、引き続き、現在の河川整備を着実に推進
- しかしながら、**内水氾濫による浸水範囲**などに見られるように、**浸水リスク**が残余することも、見受けられる。

⇒ 今後の浸水対策のあり方の検討にあたり、次ページ以降で残余する浸水リスクを確認する。
なお、以下に留意点を再掲する。

(再掲)

- ・ 今回構築したシミュレーションモデルを活用し、

現在進めている浸水対策の妥当性、残余する浸水リスクを「見える化」

- 1) シミュレーションモデルによる再現計算 (今次降雨、令和元年)
- 2) 令和11年度までの河川整備と残余する浸水リスク

※ なお、シミュレーションモデルが表現しているものだけの「見える化」であることに留意。(今回の検証で表現出来ていない部分があることも踏まえる必要がある。)